

平田仁子と読み解く、 パリ協定後の気候変動対策



第21回

子どもたちの訴えに応えられるか
～9月20～27日は気候ウィーク

認定NPO法人 気候ネットワーク 理事 平田 仁子

今夏もたいへんな猛暑になりましたね。熱中症や災害に十分に備えることは、命を守るためにこそ必要、という時代になってしまいました。影響は国内だけではなく世界各所で、ヨーロッパの熱波、グリーンランドの氷の融解の加速など、とてつもない異変が日々報告されています。目の当たりにする現象が危機的なため、最近では、気候変動 (Climate Change) ではなく、Climate Crisis (気候危機)、あるいはClimate Chaos (気候混乱) などと、より強い言葉で現象が語られるようになっていきます。9月23日に予定されている国連事務総長主催の気候サミットは、この厳しい現実にとどのように立ち向かうことができるのでしょうか。

子どもたち・若者たちの訴え

「希望などという言葉はいらぬ。大人たちは、自宅が燃えているかのように、パニック



9/20のアクションを呼びかけるグレタ・トゥーンベリさん
出典: <https://globalclimateshrike.net/>

クになって」と言うのは、スウェーデン国会前の座り込みを一人で始め、行動を起こした16歳の高校生、グレタ・トゥーンベリさん。彼女の行動が今、世界中の若者たちを駆り立てています。毎週金曜日に気候行動を訴えるストライキ「未来のための金曜日 (Friday for Future)」は、世界100カ国を超える国々に広がり、気候変動を巡る政治を揺るがし始めています。

例えばドイツでは、金曜日の気候ストライキは40週間以上続いており、多いときには数十万人という規模で子どもたちが学校を休んでデモをしています。政治家が「気候変動のことは専門家に任せて、学校に戻りなさい」と言えば、「大人たちが行動しないからこうしてデモをしなければならない」と返し、それに対し2万人を超えるドイツの科学者たちが「私たちは専門家だが、子どもたちが言っていることの方が正しい」と応酬するといった事態になっています。気候ストライキのうねりは、若い人の投票を促し、ドイツの緑の党の躍進といった結果にもつながっているとされています。

若者に期待を寄せる グテレス国連事務総長

国連事務総長のアントニオ・グテレス氏は、9月23日の気候サミットの開催理由について、パリ協定の目標達成に全く足りない各国の現在の行動を引き上げるためだと説明しています。そして、気候ストライキを

●国連事務総長主催の気候サミット(9/23)のテーマ

テーマ	議長国	主な内容
緩和	チリ	緩和行動の引き上げ(NDCs、長期戦略・ネットゼロなど)
社会・政治課題	ペルー・スペイン	健康・公正な移行・ジェンダー・気候安全保障など
ユース・市民行動	マーシャル諸島、アイスランド	ユース・市民社会のモビライゼーション、全てのテーマへのユースの参加など
エネルギー転換	デンマーク・エチオピア	エネルギー転換(再エネ・省エネ・蓄エネルギー・エネルギーアクセス・エネルギー革新など)
産業転換	インド・スウェーデン	転換が困難な業種(製鉄やセメント)のより強いコミットメントの創出、船舶などの取り組みの加速
インフラ・都市・自治体	トルコ・ケニア	交通・建築・水・廃棄物・開発銀行の役割など
自然ベースの解決	中国・ニュージーランド	エコシステム・農業・食糧システム、河川・海、自然資源へのアクセスなど
レジリエンスと適応	エジプト・イギリス	将来の食糧・水・仕事の持続可能性、脆弱な場所での速やかな被害からの回復など
気候資金とカーボンプライシング	フランス・ジャマイカ・カタール	低炭素排出と整合する官民の資金フローのイニシアティブ、2020年までに1000億ドル拠出のコミットメントなど

行う子どもたちこそが「世界を変えることができ、そして変えつつある」と、強い期待をにじませています。気候サミットには世界の若者たち100名を招待し、9月21日にはユース・サミットも予定されており、若者たちの力も得て、行動の引き上げの機運を高めようとしていることがわかります。当のグレタは、1月のダボス会議にも、飛行機を使わず列車で移動したことで知られていますが、今回は、太陽光パネルと水中タービンで発電できるヨットで、イギリスからニューヨークに渡って参加することでさらなる話題を集めています。

またグレタは、子どもたちだけに責任があるのではない、と、大人たちにも気候ストライキへの参加を呼びかけています。9月20日は、これを支持する全世代の人たちが、世界中で声を上げる日になる予定です。ドイツのある主要な労働組合が200万人の組合員にこのストライキへの参加を呼びかけるなど、参加者数はグングン増え、史上最大のデモになるかもしれません。

気候サミットのねらいと日本の備え

グテレス事務総長は、気候サミットに参加する各国首脳に対し、2030年までに温室効果ガスを45%削減し、2050年には実質ゼロにするため、2020年までに各国の目標

や行動を引き上げるしつかりとした現実的な計画を持ってくるようにと呼びかけています。サミットでは九つのテーマで議論を交わし、その結果、各国が行動の引き上げを約束することが期待されています(上表参考)。

さて、日本は、このサミットに向けて準備はできているのでしょうか。温室効果ガス削減目標は2030年に26%削減(2013年度比)、2050年には80%削減で、事務総長の要請には全く届きませんが、見直しをしようという気配は一切見られません。政府だけではありません。世界の子どもたちや若者が必死に声を上げているその危機感を、日本の私たちは共有しているのでしょうか。夏の猛暑に耐えながらも、どこかまだのんきに、他人事のように考えていないのでしょうか。

日本の鈍さは、私たち一人ひとりの鈍さや無関心の写し鏡とも言えそうです。もし、あなたが本気で気候危機から子どもたちを守りたいと思うなら、9月20日、学校や仕事を休んでデモにでかけてみてはどうでしょうか。

グレタはこう言っています。「あなたでないなら、誰が? 今でなければ、いつ?」—大人の私たちが試されています。🌍

* UN Climate Action Summitのページ
<https://www.un.org/en/climatechange/>

* Global Climate Strike「グローバル気候マーチ」のページ(日本語ページもあり)
<https://globalclimateshrike.net/>